



神奈川スバル株式会社



RA SURTEES



AUTOBACS SUPER GT

Round1 岡山国際サーキット 500Km RACE





神奈川スバル株式会社



<公式練習 / 1位>

今シーズンからマシンも新しくなり、期待を持てるテストを重ねて来ました。

タイヤは昨年と変わらずダンロップタイヤを使用します。

ダンロップタイヤも新BRZに合うタイヤを開発してもらい、色んな方向性を確認させてもらう事ができました。また合同テストでは、マシンのリアの挙動がシビアすぎるのを、制御するために、新しくジオメトリーを変更してもらい、今年で1番良いフィーリングを得ることができ、プラクティスでは、トップタイムを取ることができました。自分としては、もう少し煮詰めたい部分もありましたが、このマシンバランスに、大きな自信を持てたので、残り45分を残したところで井口選手と交代し、彼に良いときのタイヤの状態とロングの確認を行ってもらいました。ただ合同テストからの課題で、ソフト側では、タイヤが保たない状況が続いており、今回の練習走行でも決勝想定の日周回数には届いていない状況でした。





神奈川スバル株式会社



<公式予選 / 19位>

Q1を担当するのは、井口選手。タイヤのチョイスはミディアムタイヤ。練習走行では、ミディアムタイヤのフィーリングも良く、ソフト側とコンマ2秒でしか変わらないため、ロングを考えれば、出来ればミディアムを選びたい方向でした。練習からソフト側のタイヤは、決勝の想定周回数には届かず、決勝ラバーが乗れば少しは良い方向に進む可能性はありますが、リスクが伴う判断でもありました。ただダンロップタイヤさんの判断は、決勝の路気温を考えれば、ソフト側でも保つという判断。ただ一度も走りきれない自分達としては、不安要素もあるために、Q1は、ミディアムタイヤをチョイス。

そしてQ2は、ポールを取るためにソフトタイヤを選択という戦略でした。運任せもありましたが、スタートタイヤがQ1タイヤを選択されれば良いなという考えです。ただ井口選手のタイムが伸びず、残念ながらQ1で敗退となり、決勝は19番手スタートとなります。





神奈川スバル株式会社



<決勝 / 15位>

天候は、昨日より気温、路温共に上がっており、ソフト側を使えていたらより良い状況に進んでいました。朝の練習走行では、ソフト側のタイヤで走り、トップタイム。井口選手にすぐに交代し、決勝用のマシンフィーリングを確認。今年からガソリン搭載量が95リッターから120リッターに変更となり、僕たちにとって有難い救済となりましたが、ガソリン量の搭載が多くなり、マシンバランスを取るのが難しいという難題もあります。ただ今回の持ち込みのバランスも良かったのもあり、決勝バランスを良く、戦える自信がありました。スタートを担当するのは、自分(山内英輝)です。スタートタイヤは、昨日Q1で使用したミディアムタイヤ。スタートし、すぐに2台をパスし、そのままもっと上がっていきなと思ったのですが、想像以上にウェイトを積んだ分で加速域(トルク)で離されてしまい、得意な場所で抜いていく事ができませんでした。戦略として自分は46周まで引っ張る予定だったので、コントロールしながら走行していききました。タイヤの摩耗も決してペースが速い訳でもありませんでしたが、全くタイヤの落ちてくる感覚もなく、同じペースで走り続ける事が出来ました。ただ想像以上にタイヤの表面温度が上がらずペースも上位と比べると良くありません。





神奈川スバル株式会社



そして30周目に1コーナーでクラッシュ車両があり、SCが導入される可能性があるため、タイミング的にそこしか順位を上げれる可能性が無かったので、チャンスを活かすために井口選手と交代。ここでソフト側のタイヤに変更しても保つと感じたのですが、チームからリスクが高いと言われ、自分と同じタイヤのミディアムタイヤを選択。チームのピット作業もミスなく、車両を出そうとした時に、隣のピットの車両がピット真ん中でエンジンが掛からず、僕たちも完全に立ち往生となってしまう、約20秒程止まっていました。これで大きくピットロスをしてしまい、ピットアウト後、逆に順位を大きく下げ、19番手でコースに戻る事に。そこからポジションを上げ15番手でチェッカーを受けました。今回速さがあり、同じダンロップ情報だとソフト側のタイヤで全員保ったという情報もあり、全て予選でのミスが大きかったです。本当に心から残念で悔しい開幕戦となりました。ただマシンに速さはあるので、更に速さを磨いて出していけるように頑張ります。次戦は、5月3、4日富士スピードウェイで開催されます。

